



## 「義」

今

月は「義」について学んでいきましよう。

義という漢字には「ただしい、よい、神意にかなう」「法則、道理、つとめ」という意味があります。また、「義務」「義理」「正義」など、人として果たすべき務めや正しい行いを指す言葉によく用いられます。

解脱会で説く「義」とは、神仏から見て正しいことや果たすべき行いを、何よりも先に果たすことです。このことを金剛さまは「義務先行」という言葉で教えています。逆に言えば、いくら自分がやりたくても、神仏から見ても正しくなければ決してしないということでもあります。

たとえば夏休みの宿題。早めに終わらせようと張り切って始めたはずが、友達との外出や家でゲームに夢中で過ごすうち、気づけば夏休みも終わりに近づき、山

と残った宿題に頭を抱えた経験はありませんか？

人は「やりたい・やりたくない」という自分の気持ちに行動を左右され、判断を見誤りがちです。だからこそ、神仏から見ても正しい行いとは何かを見定め、果たしていく「義」が重要です。

とはいえ、神仏から見ても正しいかどうかなんて、よく分かりませんよね。神仏の視点を考えるキーワードは「共存共栄」です。私たちは、その共存共栄で成り立つ社会の中で、それぞれが担う役割（義務）を果たし、互いに助け合い支え合って生きています。そのため、自分だけが良ければいい、自分が好きなことだけをしたいという自己中心的な考えで行うことは、神意に反するので必ずよくない結果となります。

だから物事を判断する時には、「自分」ではなく「他人や周囲」

がよくなることを基準にして、「今、自分がすべきことは何か」を考えましよう。

大祭などの行事における青年部奉仕でも、「せっかくの休日、友達と遊びたかったなあ」と後ろ向きな気持ちで参加するよりも、会員さん方のために陰ながら働くこの奉仕が、「行事全体にとって必要不可欠な一翼を担っている」と自覚して取り組めたらなら、同じ奉仕でも過ごす時間の質がガラリと変わります。

その場で何が「義」であるかを自覚し実行できる人は、奉仕に限らず、家庭や社会でも役立つ人間です。今一度、自分の行動を見つめ返し、自分が本当にすべきことを考えてみましよう。

◎自分がすべき「義」について、思いっくだけ紙に書き出し、優先順位を話し合ってみよう。